

栽培技術体系の構築

—チェーンポットを用いた栽培指針—

月		3		4		5		6		7		8		9		10		11		12		1		2	
旬		上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
生育と主な作業管理	1年目		○	—	○	○	—	○			○	○			○	○									
	2年目	○	—	○					○	—	○	—	○	—	○	—	○	—	○			○	—	○	
作業の内容	○播種	3月中旬～4月中旬 チェーンポット1ポットに種子1粒播き 無加温ハウス内でトンネル被覆し育苗 本葉2～3葉期まで育苗																							
	○定植	4月下旬～6月上旬 条間140cm間隔に、幅60cm、高さ20cm程度のベッドを作り、定植する。 移植後は苗に土寄せを行い、乾燥を防止し活着を促す。																							
	○施肥(10a当たり)	基肥：堆肥 1,000～2,000 kg 苦土石灰 50～100 kg 化成肥料(14-14-14) 35～70 kg IB化成(10-10-10) 50～100 kg 10a当たりNPK成分量で10kgの施用を指標として、速効性肥料(化成14-14-14)および緩行性肥料(IB化成10-10-10)半量ずつの施用が望ましい。																							
	○追肥	追肥：1年目1回目 7月中旬～下旬 IB化成肥料(10-10-10) 50 kg 2回目 9月中旬～下旬 IB化成肥料(10-10-10) 50 kg 2年目1回目 3月上旬～下旬 化成肥料(14-14-14) 35～70 kg IB化成(10-10-10) 50～100 kg 2回目 9月中旬～下旬 IB化成肥料(10-10-10) 50 kg																							
	○摘心・摘花	摘心は2年目の着蕾期(6月下旬～)に行う。 地際から60cm～70cmの高さで、ヘッジトリマー等を用いて上部を切除する。2回程度行う。 採種用の株は摘心を行わない。																							
	○管理	薬用栽培に適用のある除草剤が1種類あるが、手取りや機械除草に努める。																							
	○病虫害	主な病害として茎腐病、立枯病、葉枯病、根こぶ線虫病などがある。 害虫としてネキリムシ、ヨトウムシ、ウリ(クロウリ)ハムシなどがある。 キキョウの薬用栽培に登録のある農薬(殺菌、殺虫、除草剤)は殆どない。 食用キキョウ(根)として、「野菜類」に適用のある農薬は使用が可能であるが、使用にあたっては実需者と協議を行う。																							
	○収穫	収穫は2年目の秋12月上旬～翌年1月中旬に行う。地上部を5cm程度残し刈り取り、掘り取り機付きトラクターで掘り取る。																							
	○調製・加工	収穫した根は、地上部と側根を切り落とし、太い根1本に切り分けブラシ式高圧洗浄機で洗浄皮むきを行い、温風乾燥機で速やかに乾燥する。 乾燥温度は50℃程度とし、24時間の間断乾燥を3日間程度行う。 乾燥した根は、実需者が求める規格に基づき調製する。 規格例：生薬用根；根径1cm以上、食用根；根径1cm未満 (何れも乾燥根の最も太い部位の径)																							
	○収量	生薬根の10a当たり目標収量 80～120 kg(乾燥重量)																							